http://www.wissenschaftsdebatte.de/?p=4749&print=0

Windkraftwerke: Macht Infrascall krank?

風力発電：低周波音は病気を発生させるか？

Hanns-J. Neubert | 21. Februar 2014 22:26

ハンス・Ｊ．ノイベルト　2014 年 2 月 21 日　22：26

めまい、吐き気、集中力の妨げ：これは、風力発電所の近くの住民の症候群の一部に過ぎない。医学者や心理学者は、これを風車病（ＷＴＳ）と名付けている。

この症候群の原因は、風力発電から出る脈打つ低周波音が原因である。それは人には聴こえないけれども、特に低周波を感じ取り、それに悩まされる人々がいるのは明らかである。

人も聴覚は、通常 15 から 20000Ｈｚの音を知覚する。これに対し、0.1-20Ｈｚの音（身体に）響く音である。

2014 年 2 月 14 日のヴィースバーデンにおける“学術討論会”で、“健康”討論グループは、まさにこの問題を取り上げた。専門家の一人、ボークム応用心理学・環境・社会研究センター（ＺＥＵＳ）の騒音心理学者ディルク・シュレッケンベルクは次のように述べた：超低周波研究は、わけても風力発電所の近傍に住む人々の苦情に基づき、取り上げられて間がない研究テーマである。この問題は真剣に取り組まれている。

超低周波音の知覚と測定の最大の困難は、強い音波の方向も源も正確に決められないことである。超低周波音はあらゆるところの存在し、風力発電は多くの源の 1 つに過ぎない。

海の波：超低周波音の源

超低周波音の最大の源の 1 つは、渚で砕ける海の波である。この騒音スペクトルは、大抵の人は快いと感じる。言葉通り、すぐ次に取り上げられるのは、モダンな家庭にある源である：セントラルヒーティングの石油バーナー、冷蔵庫のコンプレッサー、さらに最新のステレオ装置とテレビも聴こえない低音スペクトルを発生するが、それらは健康によいものである。

住まいや家屋は、建造方法に応じて低音を強化することがある。室内空間で、重ね合わさった音が、部屋の一隅、またはある壁から特に強く感じられる、いわゆる“停在波”が成立する。

さらに、超低周波音は家の外側からも侵入する。風力発電所の他、ディーゼルエンジン、

石油やガス燃焼式暖房設備、換気設備、長い自動車道路橋、高圧電力線、変電所なども低音を発生する。

これらが本当に、健康に有害なモダンな風車からの、聴こえないけれど感知し得る音であるかはまだ国際的に科学的に議論の余地がある。これは難しい問題で―しばしば当たっていないこともあり一健康上の害をニ三の原因だけに帰するのは困難である。さらに、あまりよく説明できない、いわゆる偽薬効果 Nocebo effect が一定の役割を果たしている可能性もある。その場合は、病気の不安除去がこれを解決できるだろう。

ドイツ環境局は、超低周波音から住民を守りたいと考えているが、環境医学的な支持データが少ないので、2011 年、この重要な研究を支援するための研究計画を開始した。その最初の成果は今年（2014 年）期待されている。